

認知症を五感で体験できる企画展示と
音楽とダンスで世代をつなぐイベントが...

新宿で共感のコラボレーション!

ダンス ディスコ

～みんなで歩いて、みんなで踊る!～

福祉×エンタメの可能性を
身体で感じる学びとワクワクの一週間♪

新宿御苑

ゴールデン街

思い出横丁

珈琲

認知症の世界を「五感」で体験して、理解とやさしさを広げよう

認知症世界を
歩いてみたら。展

世代をこえて、地域をつなぐ。新宿から、共生の未来を!

©2026 コラルト

①企画概要

【新企画】「知る」と「踊る」でつくる多世代共生の場

「認知症世界を歩いてみたら。展」×「ロマンディスコ」コラボイベントを新宿で開催

当事者視点の体験を通して認知症への理解を深めるインプットと、音楽やダンスを通じて世代を超えた繋がりを生むアウトプットを組み合わせることで、特別な福祉・防災にとどまらない、日常の「楽しい」を起点とした持続可能な共助コミュニティの構築を目指します。

◆コンセプト:

歩いて、感じて、みんなで踊る！ 新宿から広がる多様性が共生する新世界

◆コンテンツ:

【知る・体験する】認知症世界を歩いてみたら。展
当事者視点を体験し、思いやりの心と正しい理解を育む体験型展示。

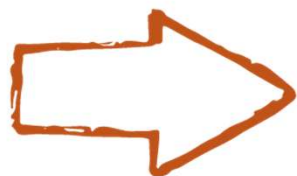
【踊る・交流する】ロマンディスコ

昭和レトロな雰囲気を変え、子どもからシニア・車椅子の参加者まで誰もが一緒に楽しめるディスコ&ダンスセッション。

◆企画のポイント

体験と交流の循環：頭で「知る・理解する」体験と、身体で「踊る・楽しむ」交流をセットにすることで、自然な形で多世代の「顔の見える関係」を創出します。

地域インフラへの昇華：楽しいイベント体験を入口にすることで、ハードルの高さを感じさせず、地域の防災や福祉の基盤となる助け合いのネットワーク(共助)へとつなげます。



認知症世界を
歩いてみたら。展



①「ロマンディスコ」とは？



◆ロマンディスコは、主催の介護福祉士のDJ玄(GEN)が主導となり、1970～80年代の歌謡曲やディスコナンバーを中心に、ミラーボールや照明演出で会場をディスコ空間に演出し、音楽とダンスを通じて高齢者や障害のある方々の心身の活性化を促す取り組みです。

◆懐かしい音楽が記憶を呼び起こし、自然と身体が動き出すその体験は、単なる娯楽にとどまらず、ケアの一環としても注目されています。

◆「福祉×エンタメ」が巻き起こす、“つながるチカラ”が共感を呼び、現在は高齢者施設のみならず、各種地域イベントや福祉イベント、お祭りなどにも招聘され、多世代、多文化をつなげる地域共生社会を創造する一助となっています。



- ☆「福祉×エンタメ」の最強タッグ！
- ☆ 音楽とダンスの力で世代を超える
& 世代をつなぐ♪
- ☆ 支えるだけじゃない、楽しむ福祉！
「懐かしさ+楽しさ+非日常」を通じて、参加者の心と体を元気に！

②ロマンディスコ:3つの目的と主な実績

目的

- ◆心身の健康促進 🎵：
音楽・映像・ダンスで活力アップ
- ◆地域交流の促進 👤👤：
住民・高齢者・学生がつながる
- ◆施設と地域の新しい関係 🏢：
福祉×文化の融合

実績・反響

- ◆開催 🏢：
ノイエス(山梨昭和町)、楓の家(能登半島)、もくれん(静岡)ほか
- ◆取材 📺：
静岡朝日テレビ／SBS／UTY／YBS／NHK甲府 ほか
- ◆著名人 👤：
RIP SLYME SUさん、EXILE MAKIDAIさん等が参加

◆参加者の声： 最高に楽しませていただいた／このまま天国に行きたい／楽しみにしてたよ／また若返っちゃう 🥰／涙が出るほど楽しかった♪

※施設・介護職員のみなさんから、回を重ねるごとに期待値が増している、職員のモチベーションアップにつながる、などの声を頂いています。

開催実例(1): FIDA GOLD CUP2025×ロマンディスコ

ROMAN DISCO
Gold Cup²⁰²⁵
Dance Kenkou Club

FIDA GOLD CUP2025 特別企画 EXILE MAKIDAI 氏 による
ロマンディスコ コラボダンスチャレンジを実施!

厚生労働省
特別健康対策監
杉 良太郎

知って、肝炎
プロジェクト
スペシャル
サポーター
EXILE MAKIDAI

DJ
GEN

日時 2025年**11月22日**(土)
16:00-16:20 頃予定 (開場15:30)

会場 **ニッショーホール**
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16

ご参加希望の方は
こちらをチェック!
※入場にはチケットが必要です。

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

健康一番プロジェクト

知って、肝炎



厚生労働省特別企画として
ロマンディスコダンスチャレンジ
を行いました

開催実例(2): VISIONARY DAYS×ロマンディスコ



日本一マッチョの多い介護の会社
「VISIONARY」がロマンディスコを招聘♪

「福祉、はじめてる？」を合言葉に、多様なエンターテインメントやフード、体験ブースを展開するフェスティバル形式の福祉音楽イベントを開催♪

■ VISIONARY DAYSとは

”マッチョ×介護士“で話題の、障害福祉サービスを運営する株式会社ビジョナリーが開催する福祉イベントです。

障害福祉サービスを利用する方々やご家族、地域の方、関係してくださっているすべての方々への感謝を伝える場、そして一人でも多くの方に福祉は楽しいものであるということを伝えたいという想いのもと開催されています。

障害がある方も高齢の方も子供も。介護をする側の方もされる側の方もまだの方も。みんなが音楽や出展ブースを通して、様々な体験をして楽しめる場の創出を目的としています。

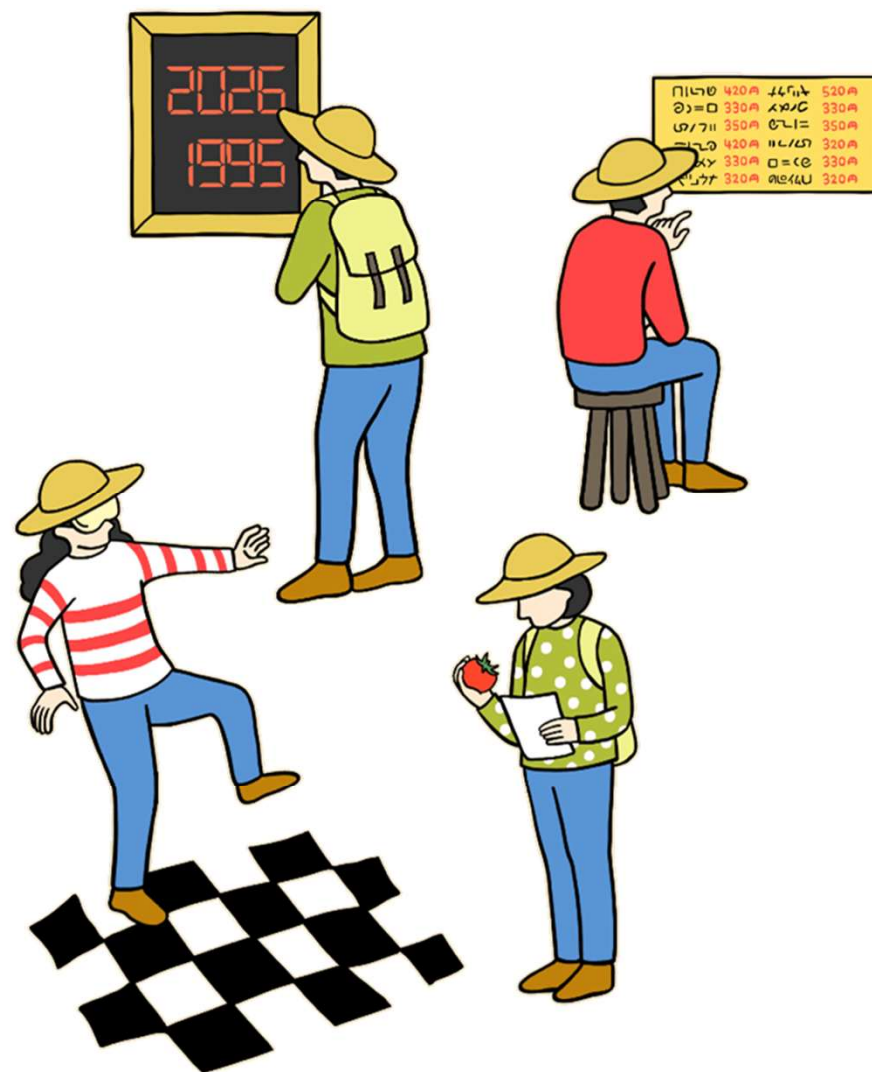
③「認知症世界を歩いてみたら。展」とは？

認知症世界を 歩いてみたら。展

◆累計20万部超の書籍『認知症世界の歩き方』の世界観をもとに、認知症のある人が見ている世界(日常で感じている「戸惑い」や「感覚のズレ」)を五感で体験できる企画展です。

◆認知症を「知識として知る」のではなく、認知症のある方が見ている世界を「体験として分かち合う」ことを大切に、認知症による戸惑いや、感覚のズレ、世界が少しずつ揺らいでいく感じを、視覚・聴覚・触覚・身体感覚——五感を使って体験します。

◆企画・主催:特定非営利活動法人
issue+design、NPO法人ボードレスファウン
デーション



開催実例：認知症世界を歩いてみたら。展@鎌倉芸術館

GWの鎌倉芸術館に4,200名以上が来場！

書籍『認知症世界の歩き方』の世界観をもとに、認知症のある方が日常で感じている「戸惑い」や「感覚のズレ」を、五感を使って体験できる8つのコンテンツで構成しました。

◆会期：2026年5月1日(金)～5月7日(木)

◆会場：鎌倉芸術館 ギャラリー1

◆主催：issue+design、NPO法人ボードレスファウンデーション

◆共催：鎌倉市／後援：神奈川県／助成：日本財団

◆掲載メディア：朝日新聞、NHK、神奈川テレビ、東京新聞 他(順不同)

今回の鎌倉での初開催を皮切りに、2026年末ごろから東京・関西・福岡での巡回展を開催予定です。その後はさらに全国の複数都市での開催を目指します。

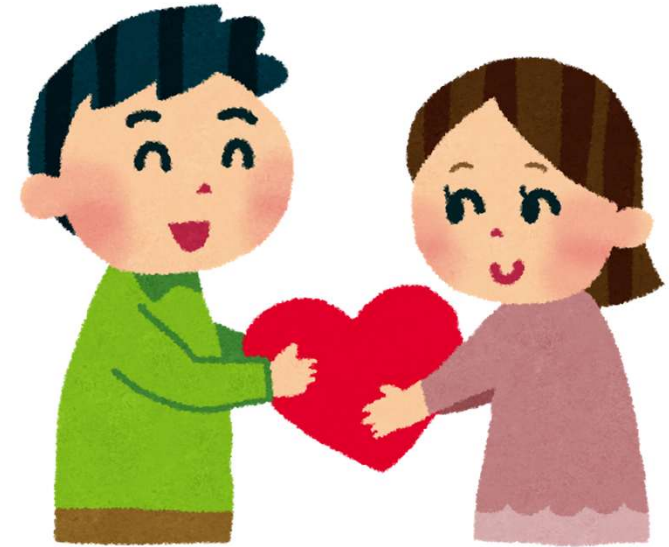


④なぜ？コラボレーション？

理解と情熱で共感のクロスオーバー！

「頭（認知・理解）」（認知症世界を歩いてみたら。展）と「心・身体（感情・躍動）」（ロマンディスコ）の循環的相乗効果が生まれます。

⇒展示体験で深めた「思いやり・配慮」を、ディスコの中で「実際の交流・ポジティブな共同体験」へと昇華させていきます。



💡 3つのシナジー効果

1. 意識の変容(インプット): 「認知症世界を歩いてみたら。展」で当事者視点を多角的に学び、認知症に対する恐怖や誤解を「共感と配慮」へとシフトします。
2. 共創と体感(アウトプット): 音楽やダンスといった身体性を伴う「ロマンディスコ」の場で、シニア・障がい当事者・若者・地域住民が共に同じ空間でステップを踏み、多世代の一体感を創出します。
3. 防災・共助のインフラ化: 学びと楽しさを共有した体験は、参加者同士の心理的距離を縮め、非常時にも助け合える「持続可能な共助ネットワーク」の構築に寄与します。

⑤なぜ、新宿？ ～5つの理由+1

①多様性の象徴都市

多文化・多世代が共存する街。高齢者だけでなく、若者や外国人住民との交流も自然に生まれます。

②アクセス抜群

都内でも屈指の交通利便性を誇る新宿なら、施設利用者・スタッフ・ゲスト・地域住民が集まりやすくなります。

③福祉×文化が盛ん

新宿区は先進的な取り組みが多く、行政や地域団体との連携がスムーズです。

④施設ニーズ一致

区内の多くの高齢者施設で、介護現場の活性化やQOL向上のニーズが高まっています。

⑤情報発信力

新宿での開催はメディアの注目を集めやすく、他地域へのモデル展開にも説得力があります。

+1▶「ささえあいのまち 新宿」

古くからの地域コミュニティでは、共助の住民意識が醸成されています。(住民主導の再開発が、日本で初めて実現したのも新宿です。)



- 多様性と交通利便性
- 「福祉×エンタメ」の新しいカタチを受容して愉しむ先進性
- 人と情報が交錯する、“ギネスにも載る”世界屈指の街で開催する話題性

補足：新宿で開催する、さらなる「理由」があります



- ★高齢者の心身活性化とQOL向上
- ★地域共生と多世代&多文化交流の促進
- ★福祉のイメージ刷新と人材への波及効果



新宿区の
「誰もが輝けるまちづくり」への貢献。

令和9年、新宿区成立80周年を迎えます。

新宿区は1947年(昭和22年)3月15日に、四谷区・牛込区・淀橋区が統合して誕生し、2027年に区制施行80周年を迎えます。

戦後の復興から現在に至るまで、国際都市・商業の中心地として発展してきた歴史を振り返り、今後の未来を見据えた記念事業の実施が予定されています。
「リバイバル+リバイタル」のタイミングとしてバッチリなのです！

検証(1): 開催場所候補の比較(新宿区内)

会場名	施設規模・収容力	メリット	デメリット	概算費用感(利用料目安)
① 新宿文化センター (区立複合文化施設) 	大ホール(1,601席) 小ホール(224席) 地下展示室・会議室併設	・全館一体利用が可能: 平日は展示室で体験パビリオン、土日は大ホールでディスコフェスを展開可能 ・高コストパフォーマンス: 区立施設のため民間ホールより格段にリーズナブル ・区の助成金や後援名義の申請と非常に親和性が高い	・大ホールが固定席スタイルのため、「フロア全体で来場者が自由に踊り回る」空間づくりに制限がある ・駅から徒歩約5～10分と直結ではない	約10万～60万円 / 日 (全館・全区分利用の場合、区分・入場料徴収の有無により変動)
② 新宿住友ビル 三角広場	国内最大級アトリウム (最大約5,000人収容)	・フラットな大空間で、展示ブース・モビリティ試乗・ディスコフロアを自由にレイアウト可能 ・全天候型・都庁前駅直結でバリアフリーも完璧 ・大型LEDやVFX・音響演出が最高峰	・施設利用料および照明・音響・設営費が非常に高額 ・大掛かりな運営体制と大型スポンサーの獲得が必須	数千万円～ (※1週間・全館利用＋大規模設営費を含む)
③ ベルサール新宿グランド	大型民間イベントホール (最大約1,400人収容)	・天井高6mのフラットスペースで、展示とディスコ演出の切り替え・区切りが容易 ・民間企業(IT・福祉テクノロジー)の協賛・出展を集めやすい	・全日利用の商業価格のため費用が高め ・公共施設に比べ、地域住民がふらっと立ち寄る導線になりにくい	約150万～300万円 / 日 (※使用ホール・区分による)
④ 新宿コズミックスポーツセンター	複合体育施設 (大体育館:約1,000人収容)	・フラットで広大な体育館フロアで、車いすダンスや体験型ブースを同時に多数展開可能 ・区民や学生のアクセスが良好で利用料も安い	・体育館のため床面保護シートの敷設が必要 ・舞台専用の音響・照明設備は持ち込みが必要で、飲食エリアの制限がある	約2万～10万円 / 区分 (※団体利用料金ベース)

諸条件を比較・勘案したうえで、現時点では、新宿文化センターでの開催が妥当と判断。

検証(2): 会期中のラフスケジュール

	DAY0	DAY1	DAY2	DAY3	DAY4	DAY5	DAY6	DAY7	DAY7+1
10:00									資機材・什器の搬出
11:00			【地下展示室・会議室】 「認知症世界を歩いてみたら。展」常設展示						
12:00									
13:00							【小ホール】 □マンディスコ	【小ホール】 □マンディスコ	
14:00	資機材・什器の搬入								
15:00			▶平日ターゲット ・近隣小中学生・高校生の校外学習・体験学習 ・地域住民、福祉関係者、行政・企業関係者						
16:00									
17:00							【小ホール】 □マンディスコ	【小ホール】 □マンディスコ	
18:00									
19:00									
								★スタッフ打ち上げ	

開催期間は1週間を想定。

会期中を通して、地下展示室・会議室にて「認知症世界を歩いてみた。展」、最終の2日間に小ホールにて「ロマンディスコ」を2回ずつ開催することを想定。

午前中は展示のガイドツアーを実施。

⑥イベント開催概要(案)

■イベント名:『認知症世界を歩いて踊って見たら。』
～あの“ロマンディスコ”がやってくる♪

新宿で学びとダンスのコラボを体感&共感～

■開催期間:2026年10月5日(火)～11日(月・祝)
10:00～19:00(ロマンディスコは10、11日の各日2回開催)

■想定会場:新宿文化センター(東京都新宿区新宿6-14-1)

■主催・企画:ロマンディスコ新宿招聘プロジェクト

※主幹事:NPO法人コラルト 幹事:特定非営利活動法人
issue+design、NPO法人ボーダレスファウンデーション

■後援・協力(想定):新宿区、新宿区社会福祉協議会、新宿区商店会連合会、地元協賛企業(例:新宿創業企業:ヨドバシカメラ、ロッテ、中村屋、三菱鉛筆etc)ほか

■参加対象:高齢者・障がい当事者とそのご家族、地域住民、学生、企業関係者、来訪者全般、ボランティア・スタッフほか

■内容:企画展示体験、ダンスタイム(着座可)



新宿の中心で
世代を超えた交流を！



⑦開催までのマイルストーン(4ステップ)

01

企画立案と関係者調整 (~6ヶ月前)

- ◆目的・規模の明確化
- ◆行政・地域団体・施設へ説明
- ◆区役所・社協へ相談
- ◆商店街・福祉団体と連携検討

◆助成申請(協働推進基金)

◆地域コミュニティ事業助成

◆会場下見

◆機材手配・見積り

02

資金・会場の確保 (~3ヶ月前)

03

広報・参加者募集 (~1ヶ月前)

◆チラシ・ポスター・SNS・広報誌で告知

◆コミュニティ活性化

◆プレスリリース

◆運営マニュアル／ボランティア募集・研修

◆会場設営

(什器・装飾・照明・最終2日はDJブース・座席)

◆導線・安全管理

◆進行台本最終化

◆撮影・アンケート・報告

04

実施準備と当日運営 (~当日)

STEP 1

STEP 2

STEP 3

GOAL!

©2026  コラルト

⑧多彩な「座・新宿」(THE SHINJUKU)コラボ企画例



私たちの新宿は多種多様な魅力にあふれた街です。

⑨それ、実は防災なんです(内閣府)



「日常の何気ない行動(散歩、買い置き、近所付き合いなど)が災害時の備えになる。」特別な準備ではなく、ローリングストックや地域交流など、日々の生活行動を防災に繋げる「知る防災」を提案しています。

日頃の地域交流や顔の見える関係性(共助のネットワーク)づくりは、非常時における最強の防災インフラとなります。本企画は、学び体験・音楽・共感を媒介に、多世代が自然に混ざり合う持続可能な共生コミュニティの構築を促します。





次の世界線へ

ライフハックFEXPO 東京

NEXT CHALLENGE..

「福祉×テクノロジー×エンタメ」の
複合型イベント

『FEXPO=FES+EXPO』

◆想定会場:新宿住友ビル三角広場
(全天候型・アクセス良好)

◆狙い:「認知症世界を歩いてみたら。展」&「ロマンディスコ」の認知拡大の先に”横展開”を

◆対象:老若男女、社会に“違和感”
を感じているすべての人

TokyoTokyo
FESTIVAL

“スマートシティ”から...

～「絆」でよりそう～

“スマイルシティ”
への進化



新たな共生社会
への試行錯誤

FEXPO 主なコンテンツとコンセプト

主なコンテンツ

- ◆ 認知症世界を歩いてみたら。展
- ◆ 専門団体の相談・展示ブース(各種ハンディキャップ／認知症／依存症／シングルマザー／貧困／LGBT／孤独・孤立／健康不安 etc…)
- ◆ 介護・福祉ハイテク体験(自動運転技術、電動車いす、介護ロボ、見守りドローン、最新義肢装具など)
- ◆ 福祉系仕事紹介・就職＋転職＋再就職フェア(学生・高齢者・一般向け)
- ◆ メインイベント:ロマンディスコ

コンセプト

- ◆ 「生きづらさ」に寄り添い、「気づき」と「つながり」を生む体験
- ◆ 官民学横断で行政・民間サービスを“横串”に紹介、ライブ体験型
- ◆ “あんしん”と“わくわく”をシェア



福祉×テクノロジー×エンタメの融合

会場を”イヤシロチ”化する

◆イヤシロチ(弥盛地)とは

地中の電子が豊富で(マイナス・イオン)生命活動に優位に働く土地。土地が持つ生命力が高く、人が快適で居心地良く過ごせる土地。

◆具体的な取り組み

- ・会場動線・照明色温度・音量設計、グリーン装飾、休憩・回復スペースの設置。
- ・バリア・フリーなユニバーサル・デザインを基本とした空間設計。
- ・地産地消(東京野菜など)を中心としたフードコート、リユース+リサイクルなフリーマーケットなど、エコロジー&エコノミーを体感できるポップアップ。
- ・居心地の良さと回復感の最大化
→ 長居・交流・再来場を促進。



ほっこり



新宿住友ビル 三角広場



空間デザインで
心と体に優しい場を創る

最終ビジョン▶▶▶循環型コミュニティへ

多様性を包摂する、持続可能な相互扶助の循環

イベント→関係人口増→共助の文化
→次の挑戦へ

“楽しいから続く”福祉×文化の新モデルを新宿から東京へ
日本全国へ・・・そして世界へ

まあるいまんまるな
『循環型社会』